

ブチヒゲヤナギドクガ

2014年6月30日、澄川活動に参加しました。朝、バス停から少し歩いたところで市山さんの車に拾われました。到着して基地に向かう坂道を下る時に白い蛾が乱舞しているのです。大発生している毛虫のカシワマイマイの成虫とは明らかに違います。シロチョウなどの蝶の飛び方とは違うので、蛾たちだとわかります。ヤナギの大木の下のテントの前のプラスチックの波型パネルに、羽化したばかりの蛹にくっついて成虫を撮影できました。撮影時間は2014年6月30日8時51分と記録されました。



また、基地のテーブルに這う毛虫が明らかにこの基地まわりで大発生しているカシワマイマイの毛虫と違うので撮影しておきました。帰宅していろいろ調べまして、この毛虫はブチヒゲヤナギドクガと判明いたしました。乱舞していたのはその成虫たちでした。



澄川の基地まわりにはこの虫の食草であるドロノキやヤナギの樹が多いので、このブチヒゲヤナギドクガが棲息出来る環境なのです。ブチヒゲなしのヤナギドクガもいると思いますが、この毛虫に限っては背中オレンジ色が示すようにブチヒゲなのです。ヤナギドクガは背中オレンジの列が白なのです。分布は北海道はもとより本州およびシベリヤ南部から朝鮮半島に及びます。

蛾の仲間たちは羽化して成虫になるとすぐに異性を求めて、それに遭遇するやいなや交尾をします。そしてまもなく産卵し余命を楽しむでもなく死にます。成虫の期間が短いのです。ただ、ただ子孫を残す目的である異性に遭遇する機会を得るためだけに飛翔能力を神様から与えられているのです。来年は神様がウィルスなどで調整していただければ、このブチヒゲヤナギドクガが今年に増して大発生することでしょう。

一般的に、けばけばしいサイケな色彩の虫たちは(虫だけではありませんが)警戒した方がよろしいようです。「俺様は強いのであるぞ、寄らば毒があるぞ」と警告しているケースが多いのです。学術的には警戒色といいます。わかり易い例はスズメバチの装いです。しかし、どの世界でもそれにあやかる偽者が出現するのも神様のおぼしめしなのでしょう。自然の奥は底知れなく深いのであります。

この毛虫は私が看板製作作業をしているテーブル這い寄ってきました。頭上のヤナギから落下してきたようです。看板は緑化推進機構の助成場所を標示する為のものであります。

